

セネガルの布でマスク

矢掛 田賀さん「ポップ模様「明るく」」

アフリカ・セネガルから仕入れた布を使う。イルスの感染拡大で深刻な状況は続くが、気配（公正な貿易）に取り組む。カラフルでポップ分だけでも明るくなる。組む矢掛町浅海の田賀な模様が特徴で、田賀「てほしい」と話している。朋子さん(30)が、同国さんは「新型コロナウイルス」。

外協力隊員としてセネガルに赴任し、帰国後にフェアトレードを開始した。同国でも新型コロナウイルスの感染拡大でマスクが不足しているといい、売り上げの一部を同国に送り、マスクの製作費に充ててもらう計画にしている。

マスクは田賀さんが手作りし、赤や青、ピンクなど鮮やかな色使いと独特の模様が描かれた布を使用。縦約9寸、横約16寸でプリーツを施した。洗濯5枚セットで5千円。田賀さんのブランド「jam tun」(ジヤムタン)のフェイスクックとインスタグラムで受け付けている。

田賀さんは2014年から2年間、青年海(岸研一)



(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。